

星野進学ゼミ 東大京大合格者インタビュー

東京大学

理科二類

浅見 康輔



東京大学

理科一類

安部 晴貴



京都大学

工学部

小川 大翔



印象に残っているアドバイス

司会 先生のアドバイスで印象に残っていることは？

安部 木村先生が最後の方の授業で、「安部は共テでアドバンテージ持ってるから、数学はみんなが取れてる問題さえ落とさなければ受かる」と言ってくれて。今年の東大の数学は難しかったですが、そのおかげで精神面では安定して次の科目に臨めました。

小川 木村先生の「これ解けたら受かるよ」という問題を、解けた時に「本当かな？」と思いつつ、自信になったというか。大体のレベルが分かったので、印象に残っています。

浅見 僕は直前期に英作文の添削を尾澤先生にしてもらって、その時に英作文以外のことも色々助言してくれたのが大きかったです。

スランプの乗り越え方

司会 スランプとか苦しかった時期、伸び悩んだ時期はどう乗り越えた？

小川 僕は3年の2学期がなかなか伸びなくて。夏と秋で模試の判定が変わらなかつた。でも最終的に「ふわっと」上がったんで。何でか分かんないですけど、うまく今までやってきたことがハマったのかなど。

安部 秋の模試前後。定員に対して順位が下の方で「受かんないかも」ってメンタルきつかったんですけど、やっぱり「ふわっと」伸びて。

浅見 僕は1年が一番成績が高くて、だんだん削られていく感じだったんですけど、それでも諦めずに演習を積み続けて、最後までいけたかなと思います。

自己紹介

司会 よろしくお願ひします。自己紹介からいきましようか。

小川 小川大翔です。京都大学の工学部理工化学科に合格しました。出身は県立太田高校で、入塾時期は小6の3月からです。

安部 安部晴貴です。東京大学の理科一類に合格しました。出身高校は県立太田高校で、入塾時期は小6の5月くらいだったと思います。

浅見 浅見康輔です。東京大学の理科二類に合格しました。出身は県立太田高校で、入塾は小6の頭くらいだったと思います。



直前期・本番の過ごし方

司会 直前期や本番はどう過ごした？

小川 いつも通り。変に気負わず、夜もいつも通り寝て、緊張しすぎないようにしていました。

安部 勉強時間もルーティンも、変に気合を入れすぎず、普段通りを意識しました。

浅見 直前2週間くらいの家庭学習期間、新しい過去問には手を出しませんでした。今までやってきたノートを見返して、できていないところをやり直す。問題をAIで調べたりして苦手なところを徹底的に潰したのが、自信に繋がりました。

合格の瞬間と家族の反応

司会 合格した瞬間、どうだった？

小川 初めて嬉し泣きました。やっと京都に住めるんだと思って。両親も仕事を休んで一緒に見てくれて。全員で泣きました。親戚に電話した時も、電話の向こうで泣いていて。

安部 嬉しすぎたのか記憶が飛んでいます(笑)。家族は「あんなに勉強してないのに受かるわけない」というスタンスだったので、受かった時は信じてくれませんでした(笑)。

浅見 嬉しいのもあったけど、ずっと1位を背負ってきたので「ホッとした」という安心感の方が大きかったです。父も仕事を休んで、手続きとかで午後は忙しかったです。

模試の判定の推移

司会 2年の最後とか3年の時、模試の判定はどうだった？

小川 ずっと理学部志望で出していて、理学部だと判定が厳しくてDとかEで。共通テストの判定だけAでした。

安部 大体BとかCとかで、共テはAでした。

浅見 2年ぐらいまではAが多かったですけど、東大実戦とかオープン模試は、4回受けてAからDまで全部取りました。結構ぶれてたかなって。

志望校を決めた理由

司会 志望校ってどんな感じで決まりました？

小川 もともと抹茶が好きで、京都に家族旅行で行った時に「京大がある」と知って。どうせなら京都って名前ついてるし、京大行きたいなど。その時は現実味なかったですけど、高校入って順位が出て「これいけるんじゃないか」と思って目指し始めました。

安部 大学で物理をやるか化学をやるか、優柔不断で決められてなくて。東大の「進振り(進学選択)」を利用して、大学である程度やってから学部を選んだ方がいいかなと思って志望しました。

浅見 僕ももともとOxfordとかが好きで東大に興味がありました。1年の時のテストで1位とか取って「いけるんじゃないか」と思ったのと、探究活動の時に東大卒の社長と話したりして、憧れを持ったのがきっかけです。

先取り学習について

司会 先取り学習とかってしてた？

浅見 数学は高2の9月ぐらいに数III Cを一通り終わらせました。化学も高2のうち有機・無機もやり切って、基礎はできてました。物理はとりあえず手を出さずという感じでしたが。

安部 僕も数学は高2の末くらい。化学は一通り。物理は熱力学で「あ、無理だ」となって先取りはしませんでした。

小川 僕はテスト前に一気にやるタイプでしたが、塾で先に進んでいたおかげで、学校の授業が復習になって理解が深まりました。

司会 先取りの強みは「試験範囲の枠」がわかること。「これ以上は出ない」と分かること、全体像が見えて効率があがる。特に数III Cまで終わってる、数I・A・II Bの理解の仕方も変わるからね。

塾のプリント活用術

司会 プリントとか膨大だったと思うけど、どう整理してた？

浅見 全部まとめて置いておいて、「二」の問題、前に数学の授業でやったな」というのを掘り返して見直すようにしていました。

安部 塾のプリントを自分で「解き直しノート」みたいにして置いて、日常で「あの問題、どんな解き方だったか」って時に探し出すようにしていました。

小川 僕はファイルに全部ぶち込んで、だんだん厚くなってくるので、1枚1枚「いる・いらぬ」を判断して。参考にしたりそうなることが書いてあるやつだけ残して、凝縮されたファイルを作っていました。

小学部・中学部の思い出

司会 小学部とか中等部の先生とかで印象に残っていることってなにかある？

浅見 僕は英検の講座で、小・中の時にずっと浦野先生にお世話になって。いっぱい褒められて育てられたので、それが英語の基礎になったと思います。
小川 学校では教えてくれない裏技的な：例えば円錐の体積を出す問題で、正規のやり方じゃない方法を櫻谷先生から教わって。それが学校よりめっちゃ早く速くて、その単元が得意になったのを覚えています。

高校部で伸びたきっかけ

司会 高校部で、最初は苦手そうだったけど伸びたな、というところはある？

小川 僕は数学で、毎週水曜の木村先生の授業のプレッシャー。周りの人たちのプレッシャーもあって、「こんなのも解けないのか」と思われる気がして(笑)。頑張らなきゃと思って、それが数学のやる気というかモチベーションになって、最終的に結構できるようになりました。

安部 特に物理と英語が伸びた気がします。英語は読むスピードがいつの間にか上がっていた。物理もよくわかんないけど、いつの間にかできるようになっていった感じです。

浅見 英語は中学の時に結構伸ばしてもらったんですけど、高校では数学と物理をずっと取っていたので、演習量も取れて、最後の最後に伸びきったかなと思います。

後輩へのメッセージ

小川 メンタルが大事。息抜きはちゃんとやったほうがいい。あと、共通テストでやらかすとその後の1ヶ月がメンタル的にきついで、共テ対策はしっかり。

安部 自分の手応えが悪くても、案外うまくいっていることもある。ある程度肩の力を抜いて、気楽にやってみてもいいんじゃないかな。

浅見 自分の「軸」を持つこと。塾や学校の先生が言ってくれることは、今振り返ると正しいことが多い。でも全部を鵜呑みにするんじゃないで、自分の中で指針を持って分析して、納得して進むのがいいと思います。

無料体験、受付中

星野進学ゼミ



TEL 0276-56-1152(木崎校) 0276-30-3077(太田校)